

鹿角市の通説異説

①-2黒又山

【1】十和田大湯宮野平に「黒又山」と言う小山が存在します。
この小山は、天から降って来た土砂の山です。(^-)-☆

八幡平松館石鳥谷界に「笹森」、その数キロ離れた所に「ニッ森」と言う小山もありました。この二つの小山は、自動車道工事の盛り土とし運ばれたので、現在は平地になっています。

これら三つの小山は、大昔の十和田湖の噴石（土砂）ではないでしょうか。

【2】ところで、十和田湖を囲む近隣の山系に「黒」のつく山が幾つも存在します。例えば黒森山などそれなりの威容を示しています。鎮火山信仰の対象であったと思います。

【3】青森県岩木山麓に十腰内遺跡（弘前市大字十腰内字猿沢）があり、傍に伝次森山と言う小山が控えています。

十腰内式土器（とこしないしきどき）とは、十腰内遺跡から発見されたものを標識土器とし「十腰内式土器」と呼ばれています。大湯環状列石出土土器も十腰内式土器の範疇です。

同じく岩木山麓に大森勝山遺跡（弘前市大森字勝山）環状列石があり、傍に手白森山と言う小山が控えています。

黒又山・伝次森山・手白森山はいずれも水源の森ではありません。里山信仰の山として親しまれていたものと思います。

鹿角市の通説異説へ戻る

<https://twitter.com/GCZsakurada/status/1443256164158869506>